

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
2000.4.17 No. 5120

貨物協議会第9回総会開催(4/11)

55歳以上の賃上げと定年延長、京葉線を闘いの柱に



貨物協議会第9回総会が、四月十一日十八時から千葉市民会館において新小岩・千葉機関区両支部の組合員四十名の結集で開催され、ベアゼロ回答を許さず、六十歳以降も働くことのできる労働条件の確立を求めて闘いぬくことを確認した。

総会は君塚貨物協副議長の、七期連続の赤字で労働条件が下がっているなか京葉線の問題など皆で議論していただきたいとの開会のことばで始まり、山下常任委員の議長で進められた。はじめに柴崎貨物協議会議長が次のとおりあいさつを行なった。

柴崎議長あいさつ

忙しいなか又お疲れのところご苦勞さまで。私たち貨物に働く労働者は、ここ何年か年三回寂しい思いと、やり場のない怒りを覚えます。

その原因は何なのか考える

と、やはり「分割・民営化」とそれに同調した日貨労だと思えます。この間様々な攻撃がかけられてきましたが、何一つ反対するのではなく、即妥結してしまうような組合が日貨労であり、その解体なくして我々の労働条件の改善はないと言つても過言ではないと思えます。今春闘も、回答即妥結し、定期昇給は維持した等と言つているようでは組合と呼ぶことはできません。

我々は、春闘で日勤者の協力で半日ストを決行しました。ストの規模は少数組合として抗議ストではありましたが、ストの意義は充分な重みがあると思えますし、今後の闘いに生きてくるし、又絶対生かさなければなりません。

当面の取り組みとしては、京葉線乗り入れの問題が控えています。七月より訓練が開始されますが、様々な問題が出てくると思えます。又乗り入れには、労働時間、要員、運転線区等多くの課題が山積しています。京葉線問題については、本総会後早めに役員会を開催し、会社の考え方等问题点を提起していきたいと

思います。

何をやってもダメとあきらめることなく、一層団結して闘えば道は開けます。貨物協議会はその最先頭で頑張りまします。今まで以上の協力をお願いします。

つづいて来賓として、本部田中書記長、乗務員分科橋本会長よりそれぞれあいさつをうけた。

田中書記長はあいさつで、どういふ状況でも闘いを放棄せず闘いぬくことが大切とした上で、春闘で労働者が突き付けられた問題と教訓を述べた。貨物の課題として五五歳以上の労働条件や雇用延長と京葉線を二つの柱として、職場を基盤に闘うことを提起した。そして闘いに立ち上がる体制づくりを訴えた。

その後清水貨物協事務局長より経過と当面する取り組みとして、五五歳以上の賃上げと定年延長問題、基地統廃合の区切りとなる京葉線移行問題を最大の課題としたこの一年の闘いの方針が提起されたのち、質疑討論を行なった。

活発な意見出される

出された意見として、●機関車の老朽化が進んでいる、DLの増配備を。●年金支給年令の引き上げに依じた退職年令引き上げはどうなっているのか、実のある内容を闘いとう。●出向期限がまもなく切れるので現職復帰を。

●有珠山の噴火による貨物への影響はどうか。●泊り勤務の予備を確保してほしい。●組織拡大というが、配転されてくるのは国労ばかり、平成採を入れる取り組みを。●団結強化のためにもサークル行事への取り組みの強化を。●新小岩の基地どうなるのか、将来展望を明確に。これにたいして、本部、貨物協役員よりそれぞれ見解や意見がだされた。その後柴崎議長をはじめとする役員の見解を確認した。

最後に柴崎議長の団結ガンバローで総会は終了した。

貨物二支部は、三月二十八日の第二波ストと総決起集会に五〇名が結集し、この日の貨物協議会も四〇名でかちとつた。また定例の貨物協役員会をとおした貨物本社・支社との団交を貨物協が中心となつて担っている。こうした闘いの積み重ねをとおして、職場の団結を築いてきた。あらゆる意味で正念場となるこの一年を全力で闘う決意をこの貨物協総会でうち固めた。

